

## 専門部会委員意見一覧

# 基本目標 1

(1/6)

施策	意見
<p>施策1-1 こどもの権利が守られ、 こどもたちが自分らしく 育つ環境づくり</p>	<p>基本計画の一番最初にこどもの権利がかかっているのは良いと思う。一方でこどもの権利の理念、概念を本当にわかっている人は少ないと考えるため、人権の概念について普及啓発する事業を行っていただきたい。</p>
	<p>相談支援について、こども・若者が最初にどういった内容を相談すればいいのか、どう話したら伝わるか、練習するような模擬相談会のようなものがあるとこどもたちも相談しやすいのではないかと。関係機関にとっても、こどもから聞き取った内容を適切に連携する練習になるのではないかと。検討いただきたい。</p>
	<p>基本目標①は感情的、感覚的で非認知的評価が多い気がするが、内閣府がやっている国民の生活に関する一般調査のような形で、区民の意識を確認し、一般的に認知できるような評価の指標というのはいくらつくれないだろうか。</p>
	<p>評価について、シンポジウムのようなものを開いて、直接区民の声を聞いて、それを次の年次に評価に反映するという方法もあると思うので、そういうアウトプットの仕方も検討いただきたい。</p>
	<p>離婚前の支援を考えていただきたい。例えば離婚しそうな夫婦の双方の言い分を聞いてカウンセラーが解決を支援するなど離婚を食い止める。結婚に対し否定的な印象をもつこどもが増えることは、さらに少子化が加速する原因となりうる。離婚をさせない支援というのを、考えて欲しい。</p>

# 基本目標 1

(2/6)

施策	意見
施策1-2 こども・子育て家庭を地域や社会全体で支える環境づくり	不登校が低年齢化してきている。小学校入学前の幼稚園や保育園と学校が連携して、小1の壁をできるだけ低くする取り組みが重要になるのではないか。そのあたりの記述がみられなかったのでふまえていただきたい。
	ファミリーアテンダントなどアウトリーチによる支援は重要である。専門家と対話する中で、自分では気づかなかった問題に気づくこともある。一般の方の力を借りていく必要がある。
	日本版DBSが適用の可能性はあるか。
	安心安全のこどもへの環境には、マナー、ルールを守ることが前提となる。、スマホ、ごみだしなど地域共生と規範意識については、まず大人への啓発が必要ではないか。
	コミュニティスクールの運営について、校長先生が区民にお願いしているのか、まだあまりオープンになっていないような気がする。どのようなルールで設営しているのか。学校を運営するときは、仲間内でやっている感がある。校長先生の話聞くような人しかない気がする。もっとオープンにして多様な意見を汲み取るべきでは。
	こどもSOSの家は重要な事業だとおもう。もう少し事業を推進してほしい。
	こどもSOSステッカーが目立たない。みただけでこどもがどびこめるようなはねぴよんをいれたり再検討いただきたい。

施策	意見
<p>施策1-3 豊かな人間性と確かな学力を身に付け、グローバル社会を創造的に生きるこどもの育成</p>	<p>施策の方向性④に「学校力」に関する記述が実施計画事業には見受けられないように感じる。</p>
	<p>この1-3の全体像がやっぱり学校力なんだと思う。教育ビジョンを検討するときその議論はさんざん議論したが、この1-3の全体の学校力なんだと思う。それがこの中で今、委員がご指摘のとおり、見えにくさがあるというふうに思うが、このベースが全体学が学校力なので、ある意味では、マネジメントという言葉を使ってもいいんだと思う。</p>
	<p>「学校力」は割と前面に出るような言葉ですのでこのあたりがやはりどういうものを指すのかというところが、今の委員のご説明専門的なご意見なんかも踏まえながら少し、どういうふうに示すか、ご検討いただければと思います。</p>
	<p>主要事業②情報活用能力の育成について、タブレットの利用がこどもたちに悪影響を与える可能性があるという研究結果が出ている。一方で、世の中はどんどんDX化しており、今からタブレットに慣れ親しむことは大事であるため、メリハリをつけてデジタルの使い方を検討していただけるとよい。</p>
	<p>おおたの未来づくりについて、こどもが地域のことについて考えるということは非常にいいことだと思う。令和7年度以降に本格実施されたら、事例集の作成や区民への周知をいただきたい。</p>
<p>「確かな学力」において、前回の懇談会で要望のあった福祉教育、環境教育について、「それらに配慮した教育の推進」というような文言をどこかにいれてもいいのではないかと。</p>	

施策	意見
<p>施策1-3 豊かな人間性と確かな学力を身に付け、グローバル社会を創造的に生きるこどもの育成</p>	<p>1 - 3の主要事業①から⑧までであるが、すべての主要事業が関係していると一体にとらえていただきたい。主要事業同士をどのように結びつけるか、構造的にどういうふう到大田区が位置付けて1-3をグローバル化社会に向けた創造的な子供をつくるかという、そういうのをビジョン定義もしっかり論理つけていただけるとありがたい。</p>
	<p>大森東小のOGCの授業をみた。教員とこどもがうきうきわくわくする教育がいい。英語で自信をつけたらほかの教科の学力もあがるのではないかと思う。先進的な取組である大森東小学校の事例をもとに、各学校でコンパクトに実施できるとよいのでは。こどもの英語教育に対する概念を覆られた。</p>
	<p>英語を読む力、聞く力がずいぶん伸びてきている。セーラムへこども達を派遣している。その経験が生きている。今、国際教育がかなり進んでるなと思っているので、ぜひさらに進めて欲しい。</p>
	<p>STEAM教育のAが重要。芸術音楽とか美術とかそういうのはちょっと置いていかれがちだが、STEMにAが入った意味っていうのは、STEMをマネジメントする力になっている。美を意識した教育を大田区では推進してほしい。</p>
	<p>先生たちに暇な自由な時間をあたえることが、研究につながると考える。働き方改革を進めれば進めるほど、教師力がさがると思っている。先生はこどもと一緒に学びながら授業を創造的につくっていただきたい。研究できる勉強できる自由になる時間とお金を保障いただきたい。</p>
	<p>こどもたちが最初に世の中にでて長い時間ふれる大人は先生である。見本になるべきが先生である。頑張る先生と頑張らない先生がいて、頑張る先生にすべて負担がよってしまう。どのように改善を考えているのか。</p>

# 基本目標 1

(5/6)

施策	意見
施策1-3 豊かな人間性と確かな学力を身に付け、グローバル社会を創造的に生きるこどもの育成	先生が人間力あるなと思うとこどもたちもわかってついていくのではないか。まずは人間力を高めるのが必要ではないか、と思う。
	最大の赤本はこどもである。赤本にむかって批判力をもってほしい。指導本やマニュアルどおりではなく、それは違うという教師をそだてるべき。指導本をあたえるのは教育ではないということを申し上げたい。
	指導書は必要だとおもう。区民への最低の義務だと思う。先生は自己研修大事だと思う。学校外の経験が大事。ただそれは評価になかなかつながらづらい。教師は人間力が大事であるが、大学要領ではもとめられない。その乖離が休職につながると思う。
	管理職の質を高めることが学校マネジメントを進めることで大事な点と思うので、管理職への研修をおこなっていただきたい。

施策	意見
<p>施策1-4「一人ひとりが自分らしく学べ、個性と能力を伸ばす教育環境の整備」</p>	<p>不登校についての調査をしている。いじめが原因だと思っていたら、親子関係、無気力・不安など、学校に起因していない原因が非常に多い。家庭に入っていないと対応できない。学校では対応しきれないため、子ども家庭総合支援センターを活用して家庭に入り問題解決にとりくんでほしい。また、こども家庭センターで認知できる情報と学校で認知できる情報がリンクできるようなデータベースを作成することはできないか。多くの不登校の子が学校にいけるように取組をすべき。</p>
	<p>こどもの発達・成長を総合的に見ていくことが大事。相談した内容が、関係機関にITの力で共有され、専門家が対応方針を検討できる。ポリスティック（全体的な・総体的な）な仕組みがあると、より円滑に情報が整理されるのでは。</p>
	<p>不登校の子について、受験のとき、親の期待に応えられなかった。朝起きられず、親がせめると学校にいけなくなる。いろんな子がいるから一人ひとりに即した内容で対応すべき。こどもが第一なんだという形で接していくことだ大事だと思う。</p>
	<p>読書の推進については大賛成。小学校低学年のときに出会った国語の先生に本を読めといわれて本が好きになった。国語力があがるだけでなく、ほかの学力もあがるのではないか。また、新設校はどの学校も図書館が素敵に造られており、こどもたちが本に触れるのによい環境である。今後改修する学校でも、こどもが入りやすい図書室を作ってほしい。</p>
	<p>学校現場に、臨床心理士やSSWはありがたいが、家族臨床や特別支援等の専門家を配置してほしい。</p>

施策	意見
<p>施策2-1 高齢者一人ひとりが充実した暮らしを送るための環境の整備</p>	<p>自治会・町会の立場からしても社会参加は大事。困ったときに自治会・町会だけを頼られても困るので、それぞれがお互いに役割を少しずつ担いながら見守っていくという姿勢が大事。</p>
	<p>一人暮らし高齢者が都市部に増えている。75歳以上人口に占める一人暮らしの割合は、2050年には35.7%になるというデータがある。地域に全部頼るのは難しい面もあるが、地域の色々なところを巻き込んで支える形をこの中でも示す必要があるのではないかと。</p>
	<p>高齢者の社会参加は社会（地域）に貢献するような形であるべき。そのあたりを明確に打ち出してほしい。</p>
	<p>行政の事業として何ができるのかというところが強く打ち出されすぎている印象。高齢者がすべて客体のような形の書き方になっているが、主体であるべきだと思う。生きがいや役割を発揮していく上では、行政サービスを受けるだけでなく、自らが地域の主体として、地域コミュニティの一員として活躍するような場を増やしていくという観点が必要。</p>
	<p>主要事業⑥について、福祉とテクノロジーのかけあわせは未来を考える上で重要になってくる。そのような意識を持っていく必要がある。</p>
	<p>ケアマネジャーのシャドーワークや、課題の多い利用者が増えている中で、単純にICT化ではなく、改善していくことが人材センターに求められている。もう少し深掘りしてほしい。</p>



施策	意見
<p>施策2-2 本人の意思に寄り添う権利擁護の推進</p>	<p>主要事業①について、「困難な問題を抱える女性等」とあるが、立場によって強弱は簡単に変わるので、男性・女性で分けるのではなく、困難な問題を抱える「方々」を適切な支援につなげる、という形でもよいのではないかと。</p>
	<p>権利擁護の理解と啓発からさらに一歩進めて、伴走型の支援や踏み込める体制というのが、これから先の世の中にとって必要になっていくのではないかと。</p>
	<p>社協に設置されている後見センターで、後見人の支援や質を考えていくような方向性もあるとのことなので、もっと進めてほしい。</p>
	<p>カスタマーハラスメントのことが載っていない。利用者からのハラスメントに悩んでいる介護事業者は多い。とはいえ、ハラスメントを起こす方は辛くて起こしているので、その現実をちゃんと捉えて、寄り添い、一緒に包摂していくような伴走型の支援が必要ということ、どこかに盛り込んでほしい。</p>
	<p>カスタマーハラスメントについてはかなり切迫したことだと思うので、苦情解決のシステムを上手く使うこと等も含めて、身近な区の行政として考えなければならない。</p>
	<p>カスタマーハラスメントを起こす相手側に寄り添うことも必要。相談支援等ができるとうい。</p>

施策	意見
<p>施策2-3 障がいの有無等にかかわらず、安心して暮らせる支援の充実</p>	<p>主要事業③について、理解するだけで行動に結びつかないということでは不十分。障がい者側からの視点にはなっていない。障がい者側から見て、合理的配慮が進んだ大田区になってきたかを測らないと十分ではない。合理的配慮への満足度のような指標が取れるとよい。</p>
	<p>主要事業①について、障がい特性を理解している相談支援専門員と一緒に、障がい者が高齢になっても住み続けられるまちを実現するためには、相談支援体制がどうあるべきかを研究してほしい。</p>
	<p>主要事業③について、精神障がいの普及啓発がなかなかできていない。若い人たちや地域の皆さんに分かってもらいたいという思いがある。色々な方向から普及促進を考えてほしい。</p>
	<p>精神疾患がひきこもりに関わっているケースも多い。他と比べて支援が整っていないという意味も含めると、主要事業①で個別に言及があってもよいのではないか。施策2-6の健康の部分にもよるが、自殺の問題についても、精神の部分で大きな課題があると思うので、力を入れていく必要がある。</p>
	<p>受け手としての位置付けしか書かれていない。当事者活動に対する行政のバックアップについて、施策としてどう支えていくか、連携するような視点はしっかり打ち出してほしい。それぞれの方たちが地域でどう活躍できるかを明確に打ち出してほしい。縦割りを超えるということが明確になるような方針が出せないか。</p>

施策	意見
<p>施策2-4 人や地域とのつながりでお互いに支えあう体制づくり</p>	<p>主要事業②について、伴走支援・連携支援を行う主体は誰なのか。支援を行う機関や施設は必要なので、その部分がはっきりすべきである。また、ハブ人材の重要性は今でも変わらないため、各団体でプレイヤーとして活躍しつつ、他団体との連携・協働を進める役割を担う人を増やすことがポイントになるのではないかと。</p>
	<p>自治会・町会のあり方等について、第三者からアドバイスをいただき、改善していくという取り組みに力を入れて、実際に効果が上がっている。</p>
	<p>主要事業③について、情報発信だけでは足りない。出張所の支援だけでなく、区民活動団体等、地域の色々な社会資源を活用して自治会・町会が活性化するような仕組みをつくる必要がある。</p>
	<p>主要事業④について、建物よりも、行政手続が様々な方のバリアになっている。色々なバリアを考えながら、ユニバーサルにしていこうという発想を出してほしい。</p>
	<p>主要事業③について、情報発信は必要だが、それだけでは不十分だと思う。地域・社会貢献したいという方は一定数いるので、自治会・町会の活動に参加しやすいような交通整理をすることは大事。活動そのものを知ってもらおうきっかけづくり・アシストも必要。</p>
	<p>地域の活動は自由な発想で取り組んでよい。地域のことは地域で考えるということ念頭に置いて取り組んでいる。</p>
	<p>地域の活動は顔の見える関係だからこそである。地域のイベント等で顔見知りになった人たちがつながって何かできると、また地域が変わるとするのは面白い発想。</p>
	<p>将来も充実した地域のコミュニティができるようになるためには、今から取り組んでいく必要がある。PTAやおやじの会等、子育て期につながりができた子育て世代のコミュニティを次の時代につなげていくためには、その人たちに地域で主導権を持って動いてもらう必要がある。区もそのような活動を応援するような姿勢をとってほしい。</p>

施策	意見
<p>施策2-5 人々の相互理解と交流の促進</p>	<p>通訳派遣がMinto Otaの基本的な作業として入っておらず、別建てになっている。現場に伴走して支援しないと相談が止まってしまうので、そのような機能拡充をしてほしい。</p>
	<p>主要事業②では団体数を指標としており、区民の自主的な活動が伸びていくことが重要なので正しいが、その場合、施策2-4の区民活動団体の数などもあわせて載せた方がよいのではないか。</p>
	<p>主要事業①について、（主要事業にまで入れなくてよいかもしれないが）姉妹都市・友好都市の部分が出てきていない。区民にもっと知ってもらうことも目標とすべきではないか。</p>
	<p>国際交流団体というのは、日本人側が主体になって、外国人向けの支援をするものが大半だと思うが、外国人の団体やコミュニティとの連携を進めていくべきではないか。</p>
	<p>外国人のコミュニティとどうつながっていくかが大事。区として支援することも必要。</p>
	<p>施策の指標「今の日本は、人権が尊重されている社会だと思う区民の割合」に結びつく主要事業がない。大きすぎて事業レベルに入れられなかったのかとは思いますが、しっかり位置付けてはどうか。</p>
	<p>価値観が多様化する中で、男性・女性で分けるものではない、ということ併記してほしい。</p>
	<p>高齢女性の貧困が今後進むのではないかと懸念している。これから先に辛くならないよう、備える事業があるとよいのではないか。</p> <p>女性と障がいといった複合差別や交差的差別等、色々な要因が重なりあう可能性については、何か新しい施策が必要になるのではないか。平等ばかりが強調されていて、現実の課題が握り切れていないのではないか。</p>

施策	意見
<p>施策2-6 地域全体での健康づくりの推進と地域医療の充実</p>	<p>主要事業①について、学校保健・産業保健・地域保健の三本柱のうち、地域保健が抜けているのではないかと。</p>
	<p>主要事業③について、かかりつけ医の啓発だけではめざす姿を達成できないので、地域医療連携の推進に係る事業が必要ではないかと。</p>
	<p>健康啓発というところに、医療的見地からもそうだが、行政の施策や制度を使って暮らし続けられる仕組みづくりが必要。予防・重篤化防止の手前で区民に考えてもらうことが大事ではないかと。</p>
	<p>医療の分野もテクノロジーの力で変わってきている。健康の指標（主観的健康感等）は施策2-6の事業だけで達成されるものではなく、基本目標②で触れていることを色々やっていると、こころも含めて健康につながると考えている。</p>
	<p>ここ最近、こどもの体力の格差が広がっている。普段からの運動や体力づくりは、こどものころから必要ではないかと。</p>
	<p>主要事業③について、コロナ禍ではどこに相談すればよいか分からないという話題もあった。がん検診・成人歯科健診だけではなく、普段から関係をつくることが大事。</p>

施策	意見
施策2-7 スポーツの楽しさが広がる環境の整備	大きいスポーツ施設の偏在について、短期的にどうこうするのは難しいので、長期的に考えてほしい。区民の方が使うのに難しい施設もあると思うので、それをどうカバーしていくのか。また、大きい施設をいくつも区内につくるのは現実的ではないが、品川・大田・川崎等の広い範囲で拾い上げるのもよいのではないか。
	平日日中の利用率となっているが、熱中症対策のために、グラウンドだけではなく、室内設備と一緒に組み合わせた形で利用促進できないか。
	施設の偏在について、地域ごとに設置されている学校をもう少し使いやすくしてほしい。教育委員会の手続は非常にハードルが高く、地域の社会資源を地域の方たちが使えるように投資してほしい。
	基本構想のアンケートで、公園に関する大きな意見が出ていた。公園とスポーツをもう少し有効に関連させた案が出せないか。

施策	意見
<p>施策2-8 心ときめく豊かな地域をつくる 文化資源の創造と継承</p>	<p>日本はソフトパワーが強い国。主要事業②について、区が所蔵している資源だけではなく、外からも色々な展示やイベントを通じて交流を行い、色々なものが集まってくる環境をつくるというのがよいのではないか。</p>
	<p>区民が主体になって発信していくことを応援してほしいので、どこかに文言を入れていただきたい。 (活動例：読み聞かせネットワークヒッポの図書開放、地域力応援基金を活用したコンサート、赤毛のアンの音楽劇等)</p>
	<p>区民の文化活動という点あまり見られない。区側がやる事業が中心なのは当然として、その結果、区民の活動が活発になるという観点を入れてほしい。</p>
	<p>郷土博物館の延べ入館者数の算出根拠が知りたい。意欲的なのかいまいち分からない。また、区の文化や歴史に触れる機会ということで言うと、4つのミュージアムのスタンプラリーといったイベントもあったが、そういう意味では郷土博物館に限らなくてもよいのではないか。</p>
	<p>アニメは外国の方にとっても評価されている。アニメを上手く活かすというのも意味があるのではないか。</p>

施策	意見
施策2-9 生涯にわたる学びの支援	<p>それぞれの館に特色があり、地域のものをつながるようなことを進めて、独自性がどんどん発信されるような図書館であってほしい。社会資源としてもっと活用できるのではないかな。</p>
	<p>図書館のDX化が何を指しているのかが気になる。また、集会行事について、図書館のしつらえ（多目的室があるかなど）によってできることが変わるので、そのところをどう考えているのか。施策の指標とのつながりが不明確だと思ったので、もう少し考えた方がよい。</p>
	<p>図書館を利用する価値を高められるように、司書の育成や支援が必要ではないか。図書館を担う人、というところも切って離せない。</p>
	<p>今、学びはほとんどがオンラインになっている。色々な情報を上手く整理して、分野ごとに図書館が情報発信してくれるみたいなことがこれから求められるが、そのあたりを位置付けておくことが大事。</p>



# 基本目標 3

(1/2)

施策	意見
施策3-1 脱炭素化の推進と豊かな自然の継承	「省エネ機器等助成事業」の年度別計画の目標の妥当性については検証が必要ではないか。
	「LINEを活用した環境情報の発信」の年度別計画の目標が消極的であるように感じる。もう少し上げて良いのでは。
	「環境学習講座」については活動が推進となっているが、どのように推進したかをどう計るか。
施策3-3 区内企業の自己変革の促進	「新製品・新技術開発支援」の年度別計画の目標について、もう少し拡大しても良いのでは。
施策3-4 ものづくりの次世代への承継と立地支援	企業で人材を確保できないのは、情報や知識の普及が不足していることとは違うところに問題があるのではないか。非常に難しいことは理解しているが、この問題に切り込んでいく事業を検討して欲しい。
	「産業支援施設の運営・支援」について、活動が推進となっているが、具体的な内容が見えない。活動指標ならば、例えば「工場アパート立地助成事業」は助成件数、「産業支援施設の運営」は維持管理施設数、でも良いのでは。
	活動指標として、利用事業所数、延べ床面積などは出せないか。成果として把握してるデータがあるはずなので、それを示すべきでは。
	主要事業の目的としては、産業支援施設の入居が埋まっていることが大事なのか、それとも産業集積が機能しているのことが大事か。後者ではないかと思うが、数値的な成果は把握しているか。

# 基本目標 3

(2/2)

施策	意見
施策3-5 新たな挑戦への支援と企業同士の交流・連携機会の創出	「創業支援事業」の年度別計画の目標については、新規開拓・創業を区として支援していく姿勢を打ち出すために、数を更に増やせないか。
	創業支援事業の年度別計画の目標については、過去の実績との乖離があるので、見直しても良いのでは。
施策3-6 活気あふれる商店街づくりと魅力ある観光資源の創出・発信	施策の方向性を統合したとのことだが、昔からある魅力ある個店の支援は重要と考える。個店への支援については主要事業としなくてよいのか。
	個店の支援を考えたときに点での支援は限界があり、線や面で機能向上すると、結果的に商店街を構成する個店のアイデンティティが上がってくるという考え方もできる。主要事業を選定する際は、包括的な視点から商店街だけでなく、商店街を構成する個店に貢献するのかということ併せて考えてほしい。

# 基本目標 4

(1/7)

施策	意見
施策4-1 災害に強く回復しやすい 減災都市の実現	「燃えない・燃え広がらないまちづくりの推進」は施策の方向性と主要事業名が同一となっている。内容をみると、特定の地域の不燃化が記載されている。重点的に事業を行うという意味ではよいが、防火地域の見直しであったり広く不燃化を進めるべきと考える。（都市計画上の規制に関する取組なので、主要事業として記載するかは別として）
	不燃化は個人の対応では難しいこともあるので、行政が長期的にサポートする必要がある。町全体の不燃化は行政しかできないこと。十分に対応してほしい。
施策4-2 地域力を活かした防災対策の推進	防災対策という言葉に違和感がある。「災害対策」ではないかと思っている。
	「防災意識の高揚と自ら避難行動等が判断できる環境づくり」は自助を想定している部分だと思う。平時の際のコミュニティの部分を考えなくてはならない。発災時には町会が相当程度やらなければならないのが実情。
	大森・蒲田・調布でそれぞれの地域特性があり、各々訓練している。しかし、その3つのエリアを超えた取組が大事だと思う。台風19号時には鵜の木エリアから高台がある久が原エリアへ避難したことなどもあった。複数のエリアの自治会が合同で訓練することで、1つの地域の被害が大きくても他の地域へ避難することができるようになる。大田区としては、広域の防災を考えてほしい。
「防災意識の高揚と自ら避難行動等が判断できる環境づくり」で意識しているところだが、防災訓練の設計などをしっかり行っていく必要がある。	

施策	意見
施策4-2 地域力を活かした防災対策の推進	下水道のインフラ整備において、どれだけの耐震化が進んでいるのか？下水道のインフラがしっかりしていれば、災害が起きても対応できる範囲が広がる。
	マンホールトイレの整備も進めているが、下水道インフラの耐震が進んでいないとうまくいかないなので、今後も進めていく必要がある。
	私は消防団に入っているが防災意識が高い人は多くない。そのような人に向けて、防災ポータルを見ればすぐに全部分かるような仕組みがあれば、発災時でも自分の状況や何をしたらよいのかが分かる。区が準備しているものが、どうしたら区民が受信できるのかが大事。それができていれば区民は安心できる。
	情報のワンストップ化だと思う。どこに情報がまとまっているのかを日ごろから確認するというのも重要。

# 基本目標 4

(3/7)

施策	意見
施策4-3 治安がよい美しいまちの実現	体感治安の向上について、体感だけがよくなればよいと思われてしまうのが懸念。まず安全安心を実感してもらうことが大事だが、主要事業名は「安心感を高める防犯対策」のような表現がよいのではないか。
	区民安全安心メールサービスについて。不審者情報の発信はしているが、そのあとがない。そこに不審者がいなくなったことまで発信するのかという議論はあるが、保護者などは情報が出るとこわくて動けなくなってしまう。刃物を持った不審者などは、その人が捕まったところまで発信してもらえないか。検討してほしい。
	傷害に関するメールが多い。しかし詐欺事件に関するメールはほとんど来ない。首都圏ニュースで大田区では詐欺被害の発生エリアになることもあるので、そのような情報も発信してほしい。
	配信システムの強化は、運用や中身の情報も含んだものと考えている。表現等について引き続き検討してほしい。
施策4-4 地域の魅力を活かした拠点づくり	※なし

# 基本目標 4

(4/7)

施策	意見
施策4-5 誰もが移動しやすく利便性の高い多様な交通ネットワークの形成	自転車の移動は大田区において重要。ドコモと連携して大田区もコミュニティサイクルの事業を進めている。しかし交通不便地域になるとコミバスやデマンド交通などやってはいるがうまく作用していないと感覚としては持っている。また東急・京急などのバスは減便していつている。一本のバスにより多くの人乗り合うようになったケースもある。もともとある交通機関会社への働きかけをして、今ある路線をキープしてもらおうようにするのも引き続き進めてほしい。
	移動圏が保証されるような、調整が必要だと思う。
	新空港線が多くPRされているが、他の交通事業も重要。着実に進めてほしい。

# 基本目標 4

(5/7)

施策	意見
施策4-6 誰もが快適に暮らし過ごせる都市基盤と住環境の整備	重要な部分ではあるが主要事業に位置付けにくいと感じている。広く様々なことをやっていかなければならないため。主要事業に限らず、粛々とこの分野の事業を行ってほしい
	空き家等対策について。大田区は主要事業にするほどの状況なのかと尋ねたい。大田区のような市場価値が高いエリアで、主要事業として空き家対策を掲げる必要があるのか。
	自転車にせよ空き家にせよ、他の事業とダブっている部分が記載されていないので分かりにくい。空き家は安全安心のまちづくりにも寄与するため、他の事業との関連性も示していくと、全体的なイメージが分かりやすくなる。
	整理上の関係でツリー状（1つの事業は1つの施策の方向性にのみぶらさがっている）にはなるものの、実際には1つの事業は複数に寄与しているというのがわかるように説明を追加するなど工夫をしてほしい。
	放置自転車について。コールセンターなどの費用対効果が気になった。そこまでのものがわからない。
	自転車の撤去について、撤去するとそのまま誰も取りに来ないことも多いので、放置自転車にならないように啓蒙することが大事。
	空き家対策が今現在の空き家だけを指していると捉えられると誤解になってしまうので、「管理不全空き家～」等の言葉を主要事業名に含めるなどをして、区の狙いをきちんと示した方がよい。
施策4-7 世界と日本をつなぐ空港臨海部のまちづくり	※なし

施策	意見
施策4-8 多彩で魅力ある公園・緑地づくり	<p>大規模公園には様々な機能を詰め込めるが、小規模公園に多くの機能を詰め込めないで、小規模公園ごとに意味合いを持たせて特色づけていくことこそがパークマネジメントだと思う。場所、面積等によって、ここはボール遊びができる、ここは健康遊具がある等、公園の大きさ・場所・需要と供給のバランスを見ながら考え方をまとめていってほしい。</p>
	<p>規模だけではなく、公園の個性や魅力をそれぞれ考えた方がよい。</p>
	<p>基本構想の中で公園の注目度は高かった。しかしそのなかでの公園は大規模公園ではなく、身近な公園のことを指していた。大田区の中で小規模公園は同じような様式になっているので、それぞれ特色を持たせて整備していくことを打ち出してほしい。大規模公園は、あまり区民は意識していない。自分の家から遠いと猶更。身近な公園に注力してほしい。</p>
	<p>これからの時代、子育て世帯をどう区に呼び込むかが重要な課題。子育てしやすい街というイメージを打ち出していけばそれに引き寄せられる人もいる。単に施設としての公園ではなく、大田区全体としてよい効果が期待できるのが公園であるということが分かるように表現してほしい。</p>



施策	意見
施策4-9 水とみどりのネットワークでやすらげる環境づくり	<p>大田区全体の水とみどりは市街地にうまく混じっていない気がしている。呑川の水質浄化対策についても、水質浄化だけで終わるともったいない。環境対策であると同時に、区民に親しめるような空間づくりを考えてほしい。主要事業「散策路の整備」とセットで呑川水質浄化が考えられるとよい。これも、事業間で連携し、うまく相乗効果を出してほしい。</p>
	<p>大田区の小さい川はだいたい暗渠化され、残っている川は呑川ぐらい。残された呑川は暗渠化せず、きれいにしていくという方向性なのか。</p>
	<p>川が暗渠化されていても、そこはかつては川だったと地域の記憶には残っている。4-8の公園整備を行う際に、水辺と関係するものがあれば連動させていき、優先順位もつけていくとよりよいものが生まれる。</p>